

特別支援教育における ICF/ICF-CY 活用を支える手立ての検討

企画者	徳永亜希雄・松村勲由・金子健（国立特別支援教育総合研究所）
司会者	松村勲由
話題提供者	徳永亜希雄 松村勲由 金子健 溝端英二（和歌山県立紀伊コスモス支援学校） 二階堂悟（秋田県立秋田きらり支援学校） 齊藤博之（山形県立上山高等養護学校）
指定討論者	齊藤博之（山形県立上山高等養護学校）

KEY WORDS: 特別支援教育、ICF/ICF-CY、手立て

【企画趣旨】

特別支援学校学習指導要領等の解説書での ICF についての言及、ICF-CY の日本語訳版発行等の動きの中で、特別支援教育における ICF や ICF-CY（以下、ICF/ICF-CY）活用の動きが見られる。2009 年に国立特別支援教育総合研究所（以後、本研究所）が行った調査では、約 21% の特別支援学校において何らかの活用があることが報告されており、今後、さらに活用の取組が広がること推測される。実際の活用を進めていくためには実用性の高い方法の整理が指摘されている（徳永他、2009）ことを踏まえ、本研究所では、特別支援教育における ICF/ICF-CY 活用を支えるための具体的な手立ての開発と実証に取り組んできた。本シンポジウムでは、それらの開発経過や実証結果等を紹介し、併せて教育実践での活用を通じた検証結果についても紹介する。それらを踏まえた議論を通して、今後の特別支援教育における ICF/ICF-CY 活用を支える手立ての在り方について検討を行いたい。

【話題提供者の要旨】

1. 国立特別支援教育総合研究所で取組の概要（徳永）

本研究所では、「特別支援教育における ICF-CY 活用に関する実際研究（2008～2009 年度）」「特別支援教育における ICF-CY の活用に関する研究—活用のための方法試案の実証と普及を中心に—（2010～2011 年度）」を通して、特別支援教育における ICF/ICF-CY 活用の取組を支える手立ての開発と実証に取り組んできた。具体には、「ICF/ICF-CY 作成手順」、「ICF-CY チェックリスト」、「ICF 関連図作成手順（2 種類）」「活用支援電子化ツール」等の直接活用を支える手立て、「活用事例文献データベース（DB）」及び「特別支援教育における ICF 及び ICF-CY 活用に関するよくある質問と答え（FAQ）」の間接的に支える手立てをそれぞれ開発し、質問紙や教育実践での実証を通して改善の取組を重ねてきた。

2. 活用支援電子化ツールの開発と実証（松村）

前述の調査では、多用される「ICF 関連図」を活用した取組等を通して、教職員が子どもを捉える際の広がりや関係者間の共通理解の促進等の成果が報告されている。その一方で作業の複雑さ等の課題も指摘されており、実際の取組を進めるためにはその改善が重要だと考えられる。作業の複雑さの改善、そしてより効果的な活用のための手立てとして、本研究所では電子化ツールを開発し、併せてその実証に取り組んできた。電子化ツールは、各学校での教育活動の中で行われる ICF/ICF-CY の活用に資することを目的として、ICF-CY チェックユニット、ICF 関連図ユニットなどで構成されており、この活用によって ICF 関連図がより容易に作成されることが期待される。改善後の最新版についての質問紙による聞き取りを通して、操作マニュアルに加えて実際の活用マニュアル開発の必要性や研修ツールとしての活用が示唆された。

3. Web ツールの開発と実証（金子）

前述の調査では、ICF/ICF-CY に関する基本的な理解の難しさや、具体的な活用が分からない等の課題が報告されている。

そのことを踏まえ、本研究所では前述のとおり、間接的な支援ツールとして Web ツール（FAQ と DB）の開発と実証に取り組んできた。FAQ は主に初心者を対象として、ICF/ICF-CY に関する基本的事項で構成され、また DB は、主にその活用の補助を目的として、ICF/ICF-CY に関する活用事例を検索できるようになっている。実際に Web を見た教員についての調査では、その有効性や使いやすさについては肯定的な評価が多かったが、記載内容や検索項目等についての修正に関する意見も得られており、これらを踏まえての改善を検討する必要もある。

3. 教育課題把握チェックリスト等の開発と活用実践（溝端）

特別支援教育における ICF/ICF-CY 活用においては、それぞれの学校等での教育課題の改善・充実のための一つのツールとして ICF/ICF-CY を位置づけることが重要であり、同研究所で開発された ICF/ICF-CY 活用手順の中に位置づける教育課題把握チェックリストの開発に筆者は取り組んできた。同チェックリストは、教育課題に応じた特別支援教育における ICF/ICF-CY の活用を検討するために教職員が教育課題を把握し、共通理解を図るための指標となることを目的とした 9 つの内容のまとまりによって構成され、ICF/ICF-CY の活用を考えている組織的な教育課題の把握と解決に向けた ICF/ICF-CY 活用への貢献が期待されるものである。当日は、その開発過程や実践へ活用した結果を踏まえて話題提供を行いたい。

4. 開発されたツールを活用した実践事例（二階堂）

2010 年度に二つの学校が統合されて新設された勤務校では、自立活動を主とした教育課程の指導において集団による学習の指導内容及び目標を検討する際に ICF/ICF-CY を活用する取組が小グループにおける事例ベースとして検討されている。そのことにより外部専門家や隣接する医療療育センターと連携した指導の展開が期待され、そのための手立てとしては ICF 関連作成手順等の活用が有用と考えられる。当日は、それらを活用した実践事例を紹介し、得られた成果や課題等について実践者の視点から話題提供を行いたい。

【指定討論者の要旨～活用を進める手立てについて（齊藤）】

特別支援教育における ICF/ICF-CY 活用について論じられるようになって数年が経った。筆者自身はこれまで「ICF 関連図を作成する」ことで、子ども理解並びに課題解決を図り、特別な教育的支援が必要な子どもとその関係者の支援にあたってきた。実際の活用を進めるには具体的な手立てが必要であり、一般的には、子どもの全体像が把握しやすくなったことや、適切な課題の設定、円滑な関係者間の連携等の成果が報告されている。しかし、ICF/ICF-CY 活用にあたっては、ICF/ICF-CY そのものの理解をどう進めるか、本人の活用をどうするか等、ICF/ICF-CY を使うことが目的になってしまっているといった課題も指摘されている。指導や支援をより円滑に進めるには、活用の過程における工夫が必要であると考えている。そのことを踏まえ、当日はより円滑な指導や支援を進めるための工夫といった観点から議論を行いたい。

（TOKUNAGA Akio, MATSUMURA Kanyu, KANEKO Takeshi, MIZOBATA Eiji, NIKAIDO Satoru, SAITO Hiroyuki）